

おはなしの内容は、場末の細民街の保育所のことを放送したときの社会の反響のこと、幼稚園の先生の待遇のこと、など、やっぱり秋山さんは私たちと同じ畑の幼児教育者であると感を強うしたことでした。それから、ビキニの灰の久保山さんの死のことに及び、久保山夫人の心境を説いて、婦人としての平和への祈りを訴えられるあたり、女流評論家としての面影が躍如としていました。

はぎれのいい、しかしやわらか味のあるお声は、会場の隅々にまで、極めてらくに通り、講演の内容とともに満堂の人の心を打ちました。

予定の一時間丁度でお話は終わりました。何もかも流石に馴れたものでした。会員の拍手はいつまでも長く止みませんでした。本研究会最後の幕を飾るのに、ふさわしい光景でした。

## 観光

皇居拝観と、都内観光の二ツの計画は、

参会者のみなさんから、よろこばれました。みんなそれぞれ東京でなければ得られないお土産を、手にも心にも抱かれながら、それぞれ帰途に就かれたことでした。来年のこの会は、どの地で開かれることでしょうか。期待と感激を胸に描きながらこの研究会の見聞を綴りました。

(お茶の水大附属幼稚園主任)

## 第二回日本私立幼稚園教育 研究全国大会に出席して

池田節夫

日本私立幼稚園連合会主催の第二回日本私立幼稚園教育研究全国大会が、昨年の大分大会からバトンを引継いだ石川県におい

て、七月二十六日は森の都金沢市北陸学院高等学部講堂で、翌二十七日は加賀絹の発祥地小松市芦城小学校新体育館で、二日間互って開催された。

昨年は、「私立学校教職員共済組合」が設立されて、私立幼稚園に勤務する教職員にも公立の教職員と同様の共済制度ができたことを記念する意味をも持って、連合会としては初めて開催したもので、この制度の成立を喜ぶと共に、一層幼児教育の研究と精進とを誓い、私立という一色の純粹さから、実に同志的な、そして感激的な大会を終了したのであるが、今年の大会は、その日から待ち望まれていたものである。

開催地である石川県私立幼稚園協会では、「如何にしてよりよき大会を」との熱意で万般の準備に着手し、全国から参集した千六百名の会員を温かく金沢駅頭に迎えて会場まで導いてくれた。

第一日の会場校北陸学院は日本最古の私立の基督教幼稚園をもつところで、大会場としては最適の場所と言えよう。開会を待

つ間の一刻、再会を喜ぶ挨拶が諸々で交さ  
れていた。会は定刻に始められ、酷暑満員  
の会場に波うつ白扇が印象的であった。

開会式、表彰式は次第によつて進められ  
ていったが、私立幼稚園に勤続二十五年以  
上の園長十五名、二十年以上の教職員二十  
二名(いづれも昨年表彰を受けた者を除く)  
の表彰と、昨年の大会開催地大分県私立幼  
稚園協会に対する感謝状の贈呈は万場の祝  
福と感謝の拍手をあびた。

開会式のあと大会委員長、副委員長、各  
分科会座長の報告があり、続いて元文相、  
中央教育審議会々長、独協中学高等学校長  
天野貞祐氏から「新時代に生きる道」と題  
して、人間と環境、自由、道徳、教養につ  
いて話が進められ、最後にヘーゲルの「一  
本の果物の木の果物が、どんな形、香、味  
をもつものになるか、それらはその木の芽  
の中に含まれている」との言葉を引用して  
幼稚園教職員の職員を尊重すると共に自覚  
をうながす有益な講演があった。

午後、第一分科(教育内容に関するもの)

第二分科(経営管理に関するもの)に  
分れて研究協議に移った。

第一分科は、武南高志氏(東京、小金井  
教会幼稚園)、増木かずみ氏(佐賀、月影幼  
稚園)が正副座長となり、文部省上野初中  
局初等教育課長が出席して、全国から提出  
された次の八題について研究協議した。

一、幼稚園の「教育要領」はどのようであ  
るべきか(東京都)

二、幼稚園教育の効果と保育年限について  
(栃木県)

三、幼児の情操教育の適切なる方策につい  
て(東京都)

四、幼稚園における平和教育について(佐  
賀県、石川県)

五、幼児教育においてラジオを有効に利用  
する方法について(山口県)

六、問題児(例、発表力の少ない幼児)の  
指導はどのようにしたらよいか(京都府)

七、幼稚園教育における家庭との協力につ  
いて(福島県)

八、幼稚園教育と小学校教育との連繫を緊

密にすることについて(埼玉県)

第二分科は、長沼依山氏(埼玉、浦和幼  
稚園)、山名義順氏(京都、高倉幼稚園)が  
正副座長となり、文部省管理局振興課室田  
事務官が出席して次の五題を協議した。

一、私立幼稚園の今後の経営管理を如何に  
すべきか(京都府、東京都)

二、幼稚園の学校法人化を促進強化する具  
体策について(埼玉県、東京都)

三、幼稚園設立と距離の問題について(香  
川県)

四、無認可の幼児施設について(石川県)

五、幼稚園教員の資質向上をはかる方策に  
ついて(栃木県)

各分科共に昨年同様、各題目について予  
め参考資料を作製して参会者に配布したこ  
とが研究協議の進行上、その中心点、問題  
点を明らかにしたので有効であった。

第二日の会場は小松市に移され、前日の  
疲れを休めた粟津、片山津の両温泉の各宿  
舎からバスを連ねて到着、会場の新体育館  
はこの大会で初めて使うとのことである

が、実に立派なもの、定刻再会、分科会の報告が各分科の座長によって行われたのち大会宣言文が発表され二日間に亘った充実した大会の全日程を終り閉会式に入った。

閉会式で特に記したいことは小松市教育委員会柴原教育長の祝辞である。「小松市には公立幼稚園は一つもなく、幼児教育のすべてを私立幼稚園にお願いしているのです、市としては全幅の感謝を捧げると共に、それに報いるためには出来る限りの援助をしたいと思つてゐる。幼児教育がその本来の目標を達成するためには、私立の幼稚園こそ最もふさわしいものであるとの信念を持つてゐる。将来においても小松市に公立の幼稚園を設置する考えは持つてゐない。若しそれだけのものがあれば私立幼稚園の育成振興のために使う」と語られたことである。このことは、今回の大会のために示された小松市当局が全市を挙げての歓迎に如実に表われて、参会者一同に深い感銘を与えた。

この大会で連合会に研究部面を担当する

役員又は機構を設けてもらいたい、との発言があつたことは見逃せない。

連合会も発足以来七年になる。創設のため活動された役員苦心、創設以来今日の組織となるまでの役員努力は並大ていものではない。幸にして全国会員の理解と協力によって戦後の私学の行政面については強力な組織体となることができ、全国各都道府県団体もそれぞれの事業を活潑に遂行してゐるのである。

しかし、戦後の混乱時代を過ぎ、ようやく安定した情勢となつた今日、幼稚園教育にかけられてゐる社会の期待に対して、わが国幼稚園教育の大半を受持つてゐる私立幼稚園としては、行政面と共にその教育についても互に研究検討を行つて内容の充実に向上に努めなければならぬ。この願いが昨年からの大会の開催となつたのであるが、各園、各団体と、それが個々に分散することなく、互に連絡をとり、全国の私立幼稚園がその量におけると同様、その質においてもわが国幼稚園教育のためにすぐれ

たものをもつように力を合せて伸びて行かなければならない。このことが第二回において早くも表明されたのである。この団結、協力連携の心が連合会の力である。

明年の大会は愛媛県と決定発表された。昨年、連合会としては幾分の困難が考えられながらもまた芽は今後力強く成長することであらう。

この大会にさきだつて、七月二十四日に全国理事会、二十五日には全国から集つた各都道府県私立幼稚園団体代表役員一七〇余名によつて昭和三十年度（第八回）総会が小松市粟津温泉法師旅館の大広間で開かれた。激暑を忘れて事業報告、議案審議が実に熱心に、しかも霧々のうちに文部省より上野初等教育課長、室田事務官の出席を得て行われたが、役員改選において、連合会を今日の強力な組織にまでまとめ、私立幼稚園の向上のみを念願として活躍してこられた青柳理事長が勇退され、明德幼稚園長笠原秀定氏が新理事長に選出された。

（日本私立幼稚園連合会事務局長）